

パートナーシップおかげ

NO. 21

岡谷市男女共同参画推進市民の会

「あなたらしく わたしらしく」

岡谷市立小井川小学校 校長 伊藤 恵子



男女共同参画社会の実現のため、岡谷市では「男女共同参画おかげプランV」が昨年度答申され、本年度から推進されている。私も昨年度の策定時には、委員として加わりました。その策定審議中で、成果と共に課題の多いことも感じました。すこしずつ変わってきている中、家庭や地域ではなかなか変わっていかない現実も多く見られます。その中で、「意識改革のための教育・学習の力」を改めて認識しました。

今、岡谷市には「わたしらしく あなたらしく」という冊子があります。八つのテーマについてそれぞれ見開き2ページで考えるきっかけをマンガで提案しています。この冊子は、市内の小学五年生全員に配布されます。各校では、それらを資料として、「男女共同参画」社会について考え合います。学校で学習した後は、家庭に持ち帰りますので、各家庭でもぜひ話し合う時間をとっていただきたいものだと思います。

この学習を生かして、ポスターづくりに取り組んでいる学校もあります。本校でも昨年度は、学習後ポスターづくりにつなげました。学んだことをいかしたメッセージが伝わる構図を考え製作されました。そのポスターは、市の男女共同参画社会づくりポスターコンクールに出品されました。このコンクールは毎年開催されており、年々応募数も増え、作品の質も向上してきています。そこでの入賞作品は、「男女共同参画社会」の具体的な家庭や地域での姿が絵や文字で表現されているすばらしい作品です。審議会の中でも、「子どもたちの作品を市の広報などで市民の皆様に見ていただく機会を増やしてほしい」という意見を出し、多くの委員さんからも賛同の声をいただきました。本年度も、コンクールが開催されます。

本年度もすばらしい作品が応募されると期待していますし、過去の入賞作品も年数を経てもすばらしいものばかりです。それらの有効利用をお願いしたいと思います。

子どもの作品から「意識改革」が着実に進んでいることを感じています。それらを全市民の皆様へ発信し、様々な年代の皆様へ受け止めていただきたいと思います。

学校でも、冊子を中心に「あなたらしく わたしらしくいきる」ことについて、指導を本年度も計画的に進めたいと思います。

男女共同参画週間 6月23日(火)～29日(月)

「男女共同参画社会基本法」が平成11年6月23日に公布・施行され、それを記念して毎年6月23日から29日までの一週間を～男女共同参画週間～と定められています。

○岡谷市男女共同参画推進市民の会ではパネル展示を行います。

展示 6月25日(木)～7月1日(水) 場所 イルフプラザ・カルチャーセンター催事場

- ・市内小中学生による男女共同参画啓発ポスター
- ・市民の会の活動内容
- ・男女共同参画おかげプランVの紹介
- ・輝いている男性・女性など

平成27年度 第1回パートナーシップ講座

日時 平成27年6月17日(水) 19:00~20:50 場所 イルプラザ・カルチャーセンター
話題提供者 三澤 勲さん(市民の会々員) 主催 岡谷市男女共同参画推進市民の会・岡谷市

～ 家庭と仕事を両立できるような働き方について考えて見ましょう ～



◇話題の概要

日産自動車に勤務し、海外生活を(イタリア)経験された三澤さんから、日本とヨーロッパ諸国の家族の姿、労使との考え方の相違などについて話され、一方我国もなかなか進まない「男女共同参画社会」の必要性、「生活困窮者・子どもの貧困化」などにつき、海外と比較しながら話題を提供していただきました。

1) イタリアの家族

家庭を大切に夕食は家族揃って食卓を囲む。子どもたちも幸福感を強く感じている。夜外出する時は夫婦だけで出かける。子どもはベビーシッターに頼み、ベビーシッターの社会的地位は高い。

2) イタリア人(ヨーロッパ諸国)の働き方

多様な働き方が可能で、男女ともに自分の職能を企業に売り込んで採用される。与えられた仕事に責任を持ち成果を上げれば労働時間にこだわらない。イタリアでは、育児休暇は390日、所得は80%保障される。同一労働・同一賃金。日本の関連会社に勤務してみて、下請けメーカーは長時間労働、非正規雇用でないと経営が成り立たない実態を知った。

3) 男女共同参画社会を築いていく上での問題点

伝統的な男女の役割分担意識が定着している。長時間労働が改善されない。晩婚化・非婚化が少子化につながる。親の介護で退職せざるを得ない人が増えた。

4) 生活困窮者の増加と子どもの貧困化

「生活困窮者自立支援法」が(H25.12.13)が制定され、自治体は生活困窮者の自立支援に取り組むことになる。平成24年には16.3%の子どもが相対的貧困状態。(可処分所得が平均的な水準の半分以下)。背景には離婚による母子世帯の増加、児童手当などヨーロッパ諸国に比べて少ない。親から子へ貧困の連鎖。その結果、学業不振、高校中退につながる。上記問題点・改善点など提起していただき、その後4グループに分かれ、それぞれ気楽に話し合いが行われました。

参加者の意見・感想

- 女性の社会参加
・女性に活躍の場を。女性を積極的に登用してほしい。企業も女性リーダーを求めている。
・女性に働きやすい環境づくりを。
・茅野市の「働きやすい職場に」認定証の取り組みはよいと思う。
・労働組合がなくなり働く人の立場が悪くなる一方で、子どもを産む気にならない。
- 親の貧困と子どもへの連鎖
・離婚による母子家庭の増加と生活保護世帯の増加。
・父親・母親としての認識の欠如。
・離婚につき養育費を払わない、払えない。
・親の貧困が子どもに連鎖してはいけない。
・離婚後実家を頼るのは仕方ないが、母子ともに自立できない。
・子どもの方が親に気がつかっている。
・昔は近所のおばさん・おじさん皆で子育てをした。
- その他の意見
・男女共同参画と子どもの貧困について勉強しようと思っていたので、この研修会は大変参考になった。
・所属しているある会では、個人情報保護法順守で名簿をなく不便している。
・人間関係が希薄になり家庭が孤立化してきた。
・十八歳からの選挙権はよい。政治に関心を持つだろう。
・結婚しないのは、経済的理由より協働・共同意識の欠如。
・非正規社員も生活ができるように。また同一労働・同一賃金を。
・政治家を選ぶのは私たち国民である。
・一人では食べられなくても二人なら食べられる。
・このような話し合いは車座の方がよい。
・イタリアのような「幸福感」を感じる国にするにはどうしたらよいか。
・今求職中だが多分結婚はしない。

～長野県 統一地方選挙の結果が出ました～

平成27年4月統一地方選挙が終わり、県下初の女性市長が諏訪市に誕生しました。今回選挙が行われた県下34市町村議員の内、女性議員の割合は14.8%で、全国平均(26.12月)12.0%を上回っています。県内女性議員0は15町村あります。

県会議員 定数 58人 女性議員 6人 女性議員の割合 10.34%

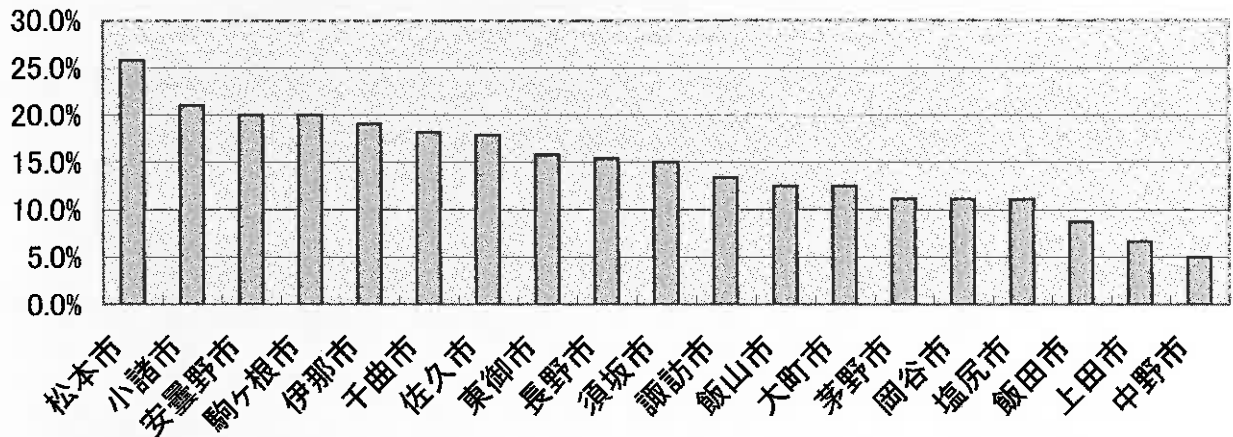
諏訪6市町村女性議員割合

市・町・村	定数	女性議員	女性の割合
岡谷市	18人	2人	11.1%
諏訪市	15	2	13.3
茅野市	18	2	11.1
下諏訪町	13	4	30.8
富士見町	11	1	9.1
原村	11	3	27.3

19市女性議員割合上位ランキング

順位	市名	定数	女性議員	女性の割合
1	松本市	31人	8人	25.8%
2	小諸市	19	4	21.1
3	安曇野市	25	5	20.0
3	駒ヶ根市	15	3	20.0
4	伊那市	21	4	19.0
5	千曲市	22	4	18.2
12	岡谷市	18	2	11.1

長野県19市女性議員の割合(27.4.30)



自治会長・PTA会長・公民館長の女性の比率

	総数(人)	女性(人)	女性比率%
自治会長	4,031	31	0.8
小・中学校 PTA会長	542	26	4.8
公民館長	247	20	8.1

長野県(平成26年4月現在)

身近な地域組織での女性リーダーは長野県は全国平均より低い状況です。

町村別女性議員割合上位ランキング

順位	町・村	定数	女性議員	女性の割合
1	大鹿村	8人	3人	37.5%
2	立科町	12	4	33.3
2	飯島町	12	4	33.3
3	軽井沢町	16	5	31.3
4	下諏訪町	13	4	30.8
5	原村	11	3	27.3

※立科町では正副議長ともに女性が就任しました

＜女性の社会進出と男性の育児参加を阻むものはなにか＞

(インターネットより)

- ・育児に父親と母親との差があるとすれば、性差ではなく「当然やるべきこと」と自覚しているか「お手伝い気分」かのどちらかに起因している。
- ・外的要因。男性は家庭を犠牲にしても容認され会社でも評価される。これが男性を苦しめているとも思われる。家庭など気にせず仕事だけに集中したい男性と、仕事などしたくない。家の中の仕事だけしていたいという女性も多い。それらの人たちの支持があって制度も維持されてきた。
- ・自分に自信のない人ほど自分のテリトリーに異質なものを排除しようとする。
- ・男女共同参画活動も形骸化している。研修会もほとんど女性しか参加しない。中味を考える。

＜都道府県別就業率＞

＜高齢者医療費＞

順位	県名	就業率 %	順位	女性就業率 %	順位	高齢者就業率	順位	県名	一人当たり後期高齢者医療費年額
1	長野県	58,9	3	49,5	1	26,7	1	福岡県	1,170,750円
2	静岡県	58,7	5	48,9	5	23,0	2	高知県	1,107,185
3	福井県	58,6	1	50,2	10	21,9	3	北海道	1,081,083
4	愛知県	58,5	8	47,9	4	23,3	4	大阪府	1,068,386
5	石川県	58,2	2	50,0	15	20,8	44	長野県	787,242
6	富山県	57,7	4	49,1	19	20,4	45	静岡県	781,693
7	岐阜県	57,4	8	47,9	11	21,5	46	岩手県	745,504
8	鳥取県	56,8	5	48,9	5	23,0	47	新潟県	736,463
8	栃木県	56,8	14	46,9	11	21,5			
8	滋賀県	56,8	18	46,3	23	20,2			

(平成26年版 ながの県勢要覧)

男女共同参画社会づくりに向けての全国会議 (内閣府主催)

日時 平成27年6月24日(水) 13:00~16:15

場所 東京都千代田区 国際フォーラム ホールC

今年のキャッチフレーズ “地域力×女性力=無限の未来”

基調講演 「アベノミクスにおける地方創生と女性の活躍」(仮)

東京大学 大学院経済学研究科教授 伊藤 元重 氏

パネルディスカッション 「女性の活躍が地方を元気にする」

コーディネーター 伊東 敏恵 氏 NHKアナウンサー

パネリスト 秋好 陽介 氏 ランサーズ株式会社代表取締役

川北 秀人 氏 I I H O (人と組織と地球のための国際研究所)代表

佐藤 郁子 氏 JTB総合研究所主任研究員

鈴木 英敬 氏 三重県知事

全体司会 山口 洋子 氏 フリーアナウンサー